

解答・解説

問1 傍線部の句形と、発言内容を確認する。

主語 使役
君^{主語}使^{使役}人^A問^B之^B 曰、↓「使^AB」AにBさせる
述語1
「子^{主語}非^{述語1}周^{述語2}人^{述語2}、而^{逆接}自^{述語2}謂^{述語2}非^{述語2}客^{疑問}、何^{疑問}也。」

傍線部は使役形で、「君主が人に（命じて）これ（＝捕らえられた人）に問わせた」ということ。問うた内容は、男が「非周人（＝周の人ではない）」のに「自分で非客（＝他国の者ではない）」と言ったことである。ここは「謂」が述語で「非客」が男の発言した内容である。

選択肢判定チェック

- ア 男が他国の者ではないのに周の国の人でもないと言った理由。
男の発言は「非客」である。(X)
- イ 男が他国の者に周の国の人ではないと言った理由。
男の発言は「非客」である。(X)
- ウ 男が他国の者でもなければ周の国の人でもないと言った理由。
男の発言は「非客」である。(X)
- エ 男が周の国の人ではないのに他国の者ではないと言った理由。
男の発言は「非周人」がどちらも正しい。(○)

よって、正解はエ。

問2 「故」までの発言内容から、『詩経』の言葉とその後の発言を吟味する。

・普 天 之 下、莫^{二重否定＝肯定＝すべて王の領土}非^{二重否定＝肯定＝すべて王の領土}王^{二重否定＝肯定＝すべて王の領土}土^{二重否定＝肯定＝すべて王の領土}、率^{二重否定＝肯定＝すべて王の領土}土^{二重否定＝肯定＝すべて王の領土}之^{二重否定＝肯定＝すべて王の領土}浜^{二重否定＝肯定＝すべて王の領土}、莫^{二重否定＝肯定＝すべて王の領土}非^{二重否定＝肯定＝すべて王の領土}王^{二重否定＝肯定＝すべて王の領土}臣^{二重否定＝肯定＝すべて王の領土}。
周が天下の君主

・今 周 君^{二重否定＝肯定＝すべて王の領土}天 下、則^{二重否定＝肯定＝すべて王の領土}我^{二重否定＝肯定＝すべて王の領土}天 子 之 臣、而^{二重否定＝肯定＝すべて王の領土}又^{二重否定＝肯定＝すべて王の領土}為^{二重否定＝肯定＝すべて王の領土}客^{二重否定＝肯定＝すべて王の領土}哉。
自分は周の君主の臣下 他国の者であろうかいや違う。

「莫^レ非」は二重否定で、強い肯定を表す。『詩経』の言葉は「すべて王の領土であり、すべて王の臣下だ」というもの。ということは、周が天下の君主である場合、すべて周王の領土であり、すべて周王の臣下であるということになる。

選択肢判定チェック

- ア 今^{天下はすべて王の領土だという『詩経』の言葉を踏まえ、周王の国の者だと述べている。(○)}は周の王が天下を治めているので、自分は周の国の人だと言えるから。
「莫^レ非」は肯定を意味する。(X)
- イ 王の土地も王の臣下もなくなったので、自分が王に仕えたいと考えたから。
「仕えたい」という内容は書かれていない。(X)
- ウ 世界に王は一人しかいないので、自分もお仕えしようと思っていたから。
「一人しかいない」「お仕えしよう」という内容は書かれていない。(X)
- エ 周の王が天子であるとしても、自分は教える立場にいるはずだから。
「教える立場にいる」という内容は書かれていない。(X)

よって、正解はア。

漢文の世界

引用

漢文の中で比喩と並んで多いのが引用である。四書五経など権威ある書物の言葉を引用することで、自分の主張の裏付けとして相手を説得するのである。ここでは、『詩経』に「王の領土でない所はない」と書いてある以上、男の主張を認めなければ、周が天下の君主ではないということになる。周が天下の君主であるならば、この男も周国の人だと認めなければ『詩経』の言葉に反する。『詩経』の言葉に反するならば、徳に欠ける思い上がった人物だと言われる。実に巧みな返答である。

出典 戦国策

横家が諸国を遊説して諸侯に述べた策略を、国別に集めた書。周の安王から秦の始皇帝までの約二五〇年間にわたる。漢の劉向の編。

14

復習

「戦国策」

解答・解説

句形Q
省略Q
解答と現代語訳

君人をして之に問はしめて曰はく、

I
君使^{メテ}二人問^{ヨシテ}之曰^{ハク}、「子非^{ズシテ}周人^ニ而自^ラ謂^{フハ}非^{ズト}客何^ニ也^ト」

周の国の君主は部下に（命じて）この男に問わせて言った、「あなたは周の人ではないのに、自分で他国の者ではないと言ったのは、どうしてか。」と。

王土に非ざるは莫く、

対^{ヘテ}曰^{ハク}、「臣少^{クシテ}而誦^{しようスヲ}詩^ニ曰^{ハク}、『普天^{もと}之下^{もく}、莫^{ザルハ}非^ニ王土^ニ」

男は君（＝君主）（人）に

お答えして言った、「私は若い頃から『詩経』を暗誦した。『詩経』に書いてある、『大空の下、王の領土でない所はなく、

率^{そつ}土^ど之^{ひん}浜^{シト}、莫^{ザルハ}非^ニ王臣^ニ。』今周君^{タレバ}天下^ニ、則^チ我^ハ天子

大地の果てまで、

王の臣下でない者はいない。」と。

今周が天下において君主であるならば、その場合私は

周の王の

之^{タリ}臣^{ルヲ}而^{タラン}又^ヤ為^ニ客哉^{ヘリト}。故曰^ニ主^ト人^ニ。君乃^チ使^ム吏^{ヲシテ}出^{ダサ}之^ヲ。

臣下である。

それなのに、さらにまた他国の者であるうか。（いや違う。）

そこでこの国の者だと言ったのだ。」と。君主はそこで官吏にこの男を（牢から）出させた。

書き下し文

君人をして之に問はしめて曰はく、「子周人に非ずして、自ら客に非ずと謂ふは、何ぞや。」と。対へて曰はく、「臣少くして詩を誦す。詩に曰はく、『普天の下、王土に非ざるは莫く、率土の浜、王臣に非ざるは莫し。』と。今周天下に君たれば、則ち我は天子の臣たり、而るを又客たらんや。故に主人と曰へり。」と。君乃ち吏をして之を出ださしむ。

語句Q
解答

㊦読みⅡこたえて 意味Ⅱお答えして

㊩読みⅡわかくして 意味Ⅱ若い頃から